



日本民家集落博物館 信濃秋山の民家(旧山田家住宅)/国指定重要文化財
昭和36年、長野県下水内郡栄村上ノ原より移築復原

もくじ

- | | | |
|------|-------------------------------|----------------------------|
| P. 2 | ● 大阪府文化財センター発足の喜び | ● 映画「塩づくりの遺跡—小島北磯遺跡の調査—」制作 |
| P. 3 | ● 財団法人 大阪府文化財センターの目的
および事業 | ● 発掘速報—久宝寺遺跡東西線— |
| | ● 組織図 | P. 7 |
| P. 4 | ● 新職員の紹介—平成14年度人事異動— | ● 久宝寺遺跡で体験学習 |
| | ● 韓国中央博物館の金成明氏が来所 | ● 池島小学校で出前授業 |
| | ● 本誌名称の変更 | ● トピックス |
| P. 5 | ● 評議員会・理事会 | ● * 瓜生堂遺跡で弥生前期水田検出 |
| | ● 訃報 | P. 8 |
| | ● 平成14年度文化財講座 | ● 弥生文化博物館 夏・秋の展示のご案内 |
| P. 6 | ● 平成14年度郷土の文化財を見学する会 | ● 近つ飛鳥博物館 夏休み企画のご案内 |
| | | ● 日本民家集落博物館 夏から秋の催し
ご案内 |

大阪府文化財センター発足の喜び

理事長 水野 正 好



本年4月1日、大阪府文化財調査研究センターと大阪府博物館協会（弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館）は統合し、その名称を改め、新しく「財団法人大阪府文化財センター」として門出することになりました。センター部には、総務・調査・普及部を、博物館部には三博物館部を組織、事業を継

承することとしました。総職員数は100名であります。理事会・評議員会も両法人の先生方に加え、法・財政面を配慮し素晴らしい先生方に御着任いただきました。

顧みますと、昭和43年、第2阪和国道建設に伴い、第2阪和国道内遺跡調査会が編成され、その調査終了時点で新しく設けられた「財団法人大阪文化財センター」に組織は移行し、事業は継承されました。やがて、近畿自動車道天理～吹田線に伴う発掘調査を受託、事業は一挙に拡大、発掘規模、職員数も急増しました。

一方、関西国際空港建設計画の進展に伴いアクセス道路、採土地の調査が問題となり、大阪府は新しく「財団法人大阪府埋蔵文化財協会」を設置、時限の法人として事態に対応する措置をとられました。調査は順調に進み建設工事が収束に向いますと、大阪府は大阪府埋蔵文化財協会と大阪文化財センターとの統合を提案、その方向に事態は動きました。

平成7年4月、両法人は統合、新組織として「財団法人大阪府文化財調査研究センター」を設置しました。本来、両法人は考古学上の調査機関、ともに開発に対応する調査機関でありましたから、その統合後の融合は時間の経過とともに深まり、強い一体感が生まれ、特色あるカラーと人の和が漂うようになっていました。

一方、第2阪和国道内遺跡調査会の調査や府・市教育委員会の連年の調査で池上曾根遺跡の重要性が確められ、史跡指定、遺跡公有化、史跡整備と進む中、設置された公開展示施設が大阪府立弥生文化博物館であります。また、ゴルフ場、大規模住宅開発で連年破壊が杞憂された一須賀古墳群も、史跡指定、公有化、風土記の丘指定、史跡整備と進展する中で設置された施設が大阪府立近つ飛鳥博物館であります。この二館は府下の文化財公開展示の拠点施設と位置付けられ、府職員の適切な配置によって運営され、その展示や講座は府民の知的基盤の形成に大きな役割を果たしてきました。

昭和30年代の急激な国土開発に伴い失われていく民家を惜しみ、全国からの移築保存をはかって設置された施設が、

豊中市服部緑地公園内の日本民家集落博物館です。現在、国指定の重要文化財等4件5棟、大阪府指定の有形文化財等5件7棟を中心に11件14棟を擁し、日本最初の民家集落博物館、日本を代表する博物館として著名な施設となっています。先の二博物館が府の意志で設置され、府の職員、府費で経営される考古・歴史系博物館であるのに対し、日本民家集落博物館は財団法人として経営され、職員も事業も法人で運営されてきました。財団法人大阪府博物館協会は、こうした三館を束ね、円滑な活動が計れるよう設置された法人でした。

大阪府文化財調査研究センターと大阪府博物館協会の統合の可能性が打診された時点、私は、長く文化財行政に携わり考古学を学んで来たものとして「調査研究機関と成果の展示公開機関は本来、車の両輪の関係にあり、緊密な連繋は府民の知的基盤高揚に役立ち、常々人々に開かれた学でありたいと説く考古学にとっても極めて有益な申し出」とうけとりました。奈良文化財研究所に平城宮跡発掘調査部と資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部と資料館、奈良県立橿原考古学研究所と附属博物館が見られるように、調査研究機構と博物館機構が協調し密接に交流する姿は、本来の行政・学問が要請する在り方だと判断、種々、問題点を調整し統合に至りました。大きな喜びの日でした。

調整上の問題は、新法人大阪府文化財センターのセンター部の所要経費の大部分は開発関係機関部局からの委託費、博物館部中の二館はその所要経費の大部分が大阪府からの委託費であり、日本民家集落博物館のみが法人の収益・寄付に加えて大阪府の補助金で運営されるといった一本化しきれていない一面を残すことです。旧組織の生い立ちを反映した三様の在り方ですが、それだけに予算の執行にあたって相互に往き来させることはできない一面が生じます。従って、ここ暫くは「親しき仲にも礼儀あり」の言葉通り、それぞれの部局が自立自営する努力が必要となります。

しかし、日本民家集落博物館の参加は、新センターの将来像に一頁を加える重要な動きです。府民が求める文化環境と私共の仕事を結び合う上で大きな役割を果たすことが予想できます。今後、その存在を広く喧伝し周知をはかることでその経営を安定させ、雰囲気、民家、民具を通して民心を伝えることで、考古学を中心に展開した旧センターや博物館に、新センターとしての新しい彩りを添え、文化財全般に働きかけるエネルギーの根源となるものと考えています。

新センターはこのように誕生しました。いま、一番欲しいものは職員の皆さんのセンターへの働き掛けです。「組織をいとおしむ心」と「組織をはぐくむ心」、「組織を動かす心」でもって積極的な提言、積極的な行動をとって欲しいのです。職員の積極的な行動こそ、不況と構造改革に揺れる流れの中で、この誕生したばかりの「大阪府文化財センター」を発展させるエネルギーとなるのです。発足にあたって、新生「大阪府文化財センター」を大阪府民のために全員一丸となって大きく発展させるよう努めて頂きたいと考えます。

財団法人 大阪府文化財センターの目的および事業

(財) 大阪府文化財センター寄附行為の第2章第3条と第4条は、目的と事業について次のように定めている。

(目 的)

第3条 この法人は、大阪府下における文化財の調査、整理、保存、研究、整備及び活用を行い、大阪府の文化財の保護並びに、文化財に対する理解と認識を深めることに寄与することを目的とする。

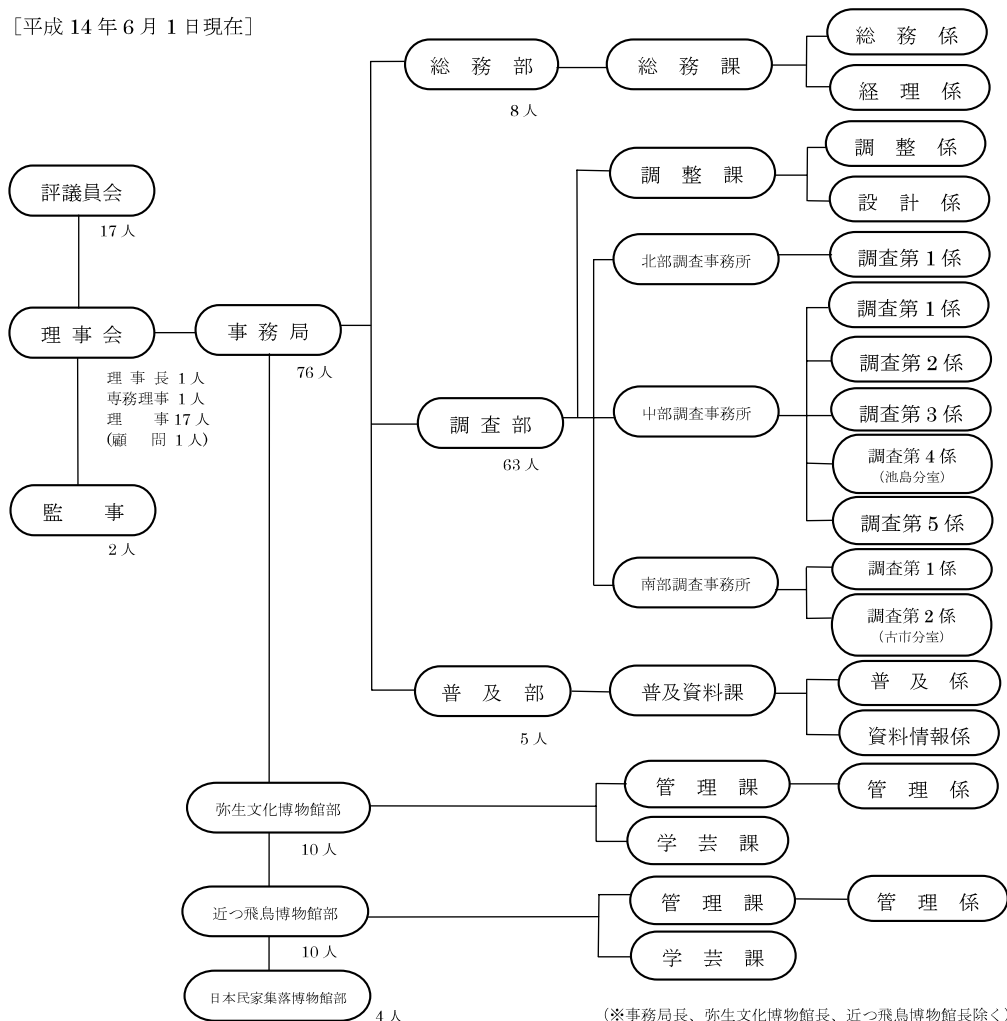
(事 業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査、整理、保存、研究及び活用
- (2) 史跡、名勝及び天然記念物の調査、保存、研究、整備及び活用
- (3) 有形・無形・民俗文化財の調査、保存、研究、整備及び活用
- (4) 文化財に関する資料、情報の収集及び管理
- (5) 文化財の普及啓発
- (6) 日本民家集落博物館の管理及び運営
- (7) 大阪府が設置する博物館の管理及び運営の受託
- (8) 大阪府立近つ飛鳥風土記の丘の管理及び運営の受託
- (9) その他目的を達するために必要な事業

組 織 図

[平成14年6月1日現在]



(※事務局長、弥生文化博物館長、近つ飛鳥博物館長除く)

新 職 員 の 紹 介 — 平 成 1 4 年 度 人 事 異 動 —

平成14年4月に大阪府博物館協会との統合により弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館の皆さんをお迎えし、大きな人事異動となった。

平成14年度の退職者、新たな派遣職員、新たな役職員、専門調査員は次の通りである。

退職者

井藤 徹（調査部長）定年退職
瀬川 健（南部調査事務所長）府へ復職
藤原秋利（設計係長）府へ復職
阪田育功（北部調査事務所調査第一係長）府へ復職
岩本和記（設計係主査）府へ復職
木嶋崇晴（南部調査事務所調査第三係技師）貝塚市へ復職

新たな派遣職員

玉井 功（調査部長）府から派遣
渡邊昌宏（南部調査事務所長/普及資料課長）府から派遣
山口和男（設計係長）府から派遣
辻本 武（中部調査事務所調査第三係長）府から派遣
山下 篤（設計係主査）府から派遣
前田義明（中部調査事務所調査第一係主査・讃良郡条里遺跡（その3））（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣
木下保明（中部調査事務所調査第一係技師・小路遺跡（その3））（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣
長戸満男（中部調査事務所調査第一係技師・讃良郡条里遺跡（その1））（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣

新たな役職員

弥生文化博物館部

金関 恕（館長）
馬場恒夫（副館長兼管理課長）府から派遣
前田徳治（管理課係長）府から派遣
斉藤 司（管理課主事）府から派遣
山崎和哉（管理課主事）府から派遣
石神 怡（学芸課長）府から派遣
三木 弘（学芸課学芸員）府から派遣
地村邦夫（学芸課学芸員）府から派遣
林日佐子（学芸課学芸員）府から派遣
木谷秀次（学芸課専門員）府から派遣
内田正俊（学芸課専門員）府から派遣

近つ飛鳥博物館部

大庭 脩（館長）
玉崎勝治（副館長兼管理課長）府から派遣
河野和明（管理課係長）府から派遣
小谷 太（管理課主事）（財）大阪府青少年財団から派遣
辻本 努（管理課主事）府から派遣
山本 彰（学芸課長）府から派遣
岩瀬 透（学芸課学芸員）府から派遣
岡本敏行（学芸課学芸員）府から派遣
上林史郎（学芸課学芸員）府から派遣

大西宏道（学芸課専門員）府から派遣
永島純一（学芸課専門員）府から派遣

日本民家集落博物館部

井藤 徹（館長）
中村友三（副館長）
山城 統（学芸員）
小島久美（学芸員）

専門調査員

（平成14年4月1日付）

正岡大実（北部調査事務所調査第一係・耳原遺跡）
多賀晴司（中部調査事務所調査第一係・讃良郡条里遺跡（その2））

宮本飛鳥（中部調査事務所調査第一係・高宮遺跡（その2））

福田由里子（中部調査事務所調査第三係・小阪合遺跡）
菊井佳弥（中部調査事務所調査第五係・久宝寺遺跡（水処理その3））

瀧口洋美（南部調査事務所調査第二係・八尾南遺跡）

（平成14年7月1日付）

島田裕弘（中部調査事務所調査第一係・小路遺跡（その2））

宮田佳代（中部調査事務所調査第三係・瓜生堂遺跡（地下河川））

島内洋二（中部調査事務所調査第四係・福万寺遺跡）

岡田佳之（南部調査事務所調査第一係・男里遺跡）

大島施子（南部調査事務所調査第二係・船橋遺跡）

韓国中央博物館の金成明氏が来所

大阪歴史博物館で開催された韓国名宝展に伴い来阪された韓国国立中央博物館の金成明学芸研究官が、5月2日当センターの中部調査事務所を訪問された。中部調査事務所での整理事業や保存処理作業あるいは遺物収蔵庫などをつぶさに視察され、写真撮影についても熱心な質問をされた。

金氏は1993年にも近畿地方に来られたことがあり、旧交をあたためたことでもあった。

本 誌 名 称 の 変 更

本年4月1日付で財団法人大阪府文化財調査研究センターは財団法人大阪府博物館協会と統合し、財団法人大阪府文化財センターとなりました。これにともない、本誌名称をこれまでの「OCCH大文研通信」から「OCCH」に改め、号数は続けることとし、本誌をNo.22といたします。

評議員会・理事会

平成14年3月26日（火）たかつガーデン（大阪府教育会館）で平成13年度第4回評議員会・理事会が開催され、平成13年度補正予算（案）、寄附行為の改正（案）、平成14年度事業計画（案）および収支予算（案）について提案し、原案どおり承認された。

また、組織等について、事務局より「財団法人大阪府文化財センター組織図」に基づき説明するとともに「財団法人大阪府文化財センター諸規定（改正案）」を提案し、原案どおり承認された。

覚書の締結について、事務局より平成14年4月1日の財団法人大阪府博物館協会との統合に伴い、財団法人大阪府博物館協会の事業および同職員に係わる雇用関係上の権利・義務について、これを包括的に継承するものであることを説明し、承認された。

また、理事会において、次のとおり評議員を追加選出した。

有川春代〔博物館運営協議会委員〕

池田良治〔弁護士〕

蔵口康裕〔朝日監査法人大阪事務所 公認会計士〕

佐藤茂弘〔博物館運営協議会委員〕

杉本尚次〔博物館運営協議会委員〕

狭間恵三子〔サントリー不易流行研究所主任研究員〕

南 俊光〔大和銀行執行役員 本店公務部長〕

任期：平成14年4月1日 至 平成15年6月24日



訃報

2002年5月26日、今村道雄氏（大阪府教育委員会文化保護課技師）がサイクリング途中で交通事故でなくなられた。享年54才。

氏は石川県の生まれで、京都の大谷大学に在学中から、大阪府教育委員会による陶邑古窯址群の発掘調査に参加した。

大学卒業後は瓜生堂遺跡調査会の調査員となり、著名な瓜生堂2号方形周溝墓等の発掘調査に携わった。

1976年には財団法人大阪文化財センターに就職し、79年には大阪府教育委員会職員となった。この間以後、近畿自動車道予定地内遺跡をはじめ、数多くの遺跡の発掘調査を手がけた。

また、阪神淡路大震災後の復興に伴う、遺跡発掘調査のため、兵庫県教育委員会へも出向した。

氏は温厚な人柄から、多くの人々から親しみをこめて「いもさん」の愛称で呼ばれた。

平成14年度文化財講座

開講以来30年目の節目を迎える今年度の文化財講座は、『考古学から港を語る』というテーマで企画。ここ数年来、弥生時代では、長崎県原の辻遺跡の船着き場遺構、岡山県上東遺跡の波止場状遺構、中世では、広島県草戸千軒遺跡が有名であるが、一昨年みつかった青森県十三湊遺跡の船着き場遺構や長崎の出島等と、港の施設そのものが発掘調査によって明らかになってきている。これまでは、出土する他地域・朝鮮半島・中国大陸の遺物から交流の歴史を紐解いていたが、明らかになった港湾施設と合わせて検討することにより、交流の実態が見えてくるのではないだろうか企画した次第である。

昨年度までの会場である大阪府立文化情報センター「さいかくホール」から、今年度は、大阪市天王寺区上汐にある大阪府中小企業文化会館 12号室へと会場を移し、午後6時30分～8時まで実施している。

今年度は284名の応募があり、抽選により当選者240名に連絡、最終218名の会員で動いている。

第1回目は、長崎県教育庁の安楽 勉氏の「一支国と海上交易」というご講演である。長崎県壱岐の原の辻遺跡の8年間にわたる調査成果をもとに、スライドを駆使して、対岸の朝鮮半島との関係を明らかにしつつ、邪馬台国の玄関口の一つである壱岐の港湾都市原の辻遺跡を紹介していただいた。雨の中185名の出席があった。

平成14年度文化財講座

考古学から港を語る

第1回 5月15日（水）
「一支国と海上交易」
安楽 勉氏（長崎県教育庁学芸文化課課長補佐）

第2回 6月19日（水）
「吉備の港湾施設（上東遺跡で解ったこと）」
下澤公明氏（岡山県古代吉備文化財センター課長補佐）

第3回 7月17日（水）
「青谷上寺地遺跡からみた山陰の交通」
藤田憲司氏（財）大阪府文化財センター中部調査事務所所長）

第4回 8月21日（水）
「古代大阪湾の開発」
水野正好氏（財）大阪府文化財センター理事）

第5回 9月18日（水）
「古代畿内の水上交通」
宋原永達氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

第6回 10月16日（水）
「博多湾・古代・中世の国際交流の舞台」
池崎譲二氏（福岡市教育委員会文化財部主査）

第7回 11月20日（水）
「中世の港町―大物遺跡」
岡田 祐氏（尼崎市教育委員会技師）

第8回 12月18日（水）
「瀬戸内の港町―草戸千軒」
岩本正二氏（財）広島県埋蔵文化財調査センター調査研究課長）

第9回 1月15日（水）
「港湾の伽藍橋遺跡と堺」
森村健一氏（堺市立埋蔵文化財センター主査）

第10回 2月19日（水）
「近世長崎の国際交流」
島浦正義氏（長崎県教育委員会学芸員）

◆参加費 用：一般市民（16歳以上）定額240名（抽選）
◆受 講 料：年間5,000円（資料代含む）
◆会 場：大阪府中小企業文化会館 1階12号室
大阪市天王寺区上汐4-4-25
◆交 通 線 路：地下鉄谷町線「谷町9丁目」下車（5番出口）
谷町線南へ徒歩7分東入ル
地下鉄谷町線「四天王寺前」下車
谷町線北へ徒歩7分東入ル
近鉄「上本町」下車 南西へ徒歩12分
◆時 間：午後6時30分～8時

◆主 催：（財）大阪府文化財センター
◆問い合わせ：（財）大阪府文化財センター 企画普及係
TEL.06-6785-4531

◆申込み方法：往復はがきに住所・氏名（ふりがな）・年齢・性別・
電話番号・返信用宛名を記入してお申し込みください。

◆申し込み先：（財）大阪府文化財センター 企画普及係
〒577-0012 東大阪市長田東1-9-16

◆申込締切日：平成14年4月30日（火）必着

平成14年度郷土の文化財を見学する会

今年度も例年のように300名以上の当会への申し込みがありました。新たに申し込まれた人も少なからずおられます。

昨年度に引き続き、大阪府下を中心とした史蹟や遺跡を尋ねることで、足元の歴史を見つめながら日本史の大きな流れの中での位置付けを考えて行きたいと思っています。

さて、さっそく、5月15日には泉南地域の文化財探訪「泉南市の国史跡『海会寺跡』とその周辺の歴史をさぐる」と題し、本年度の第1回例会を開催いたしました。

当日は晴天に恵まれ118名の参加者がありました。泉南市立古代史博物館の城野博文氏に解説をしていただき、古代寺院であった海会寺を中心に泉南市域の歴史を垣間見ることができました。

6月15日には第2回例会として「池上曽根遺跡と弥生文化博物館特別展示」を開催し、81名が参加されました。

弥生文化博物館や学習館の学芸員の解説で同館の特別展示「青いガラスの燦き」や池上曽根遺跡の内容を深く知ることができました。

今年度もやや遠方へ赴く、バスツアー1回（今年度は和歌山県の文化財探訪）を含めて、例会を10回予定しています。できるだけ現地の文化財と関係の深い方々に講師となっただき、エピソードを交えたお話を拝聴しようと考えています。また、訪問先にある博物館や資料館を有効に活用できれば良いと考えています。（岡本 圭司）



池上曽根遺跡復原大型建物の前で解説を聞く

映画「塩づくりの遺跡 —小島北磯遺跡の調査—」制作

当センターが発掘調査を行った大阪府泉南郡多奈川町の土器製塩遺跡、小島北磯遺跡の発掘調査記録映画が完成した。16ミリとVHSがある。なおこれ以外にも発掘調査の記録映画あり。学校、博物館、郷土史研究会等での利用は無料（但し送料は利用者実費負担）。お問い合わせは当センター普及部（TEL06-6785-4531）まで。

発掘速報 久宝寺遺跡東西線

久宝寺遺跡は、八尾市の西部に所在する、縄文時代後期から近世にかけての複合遺跡である。昨年度から当センターにより、大阪府竜華都市拠点地区において、広範囲の発掘調査が行われている。2002年1月からは、新たに竜華東西線その2の調査が始まった。

東西線その2調査区は、99年度に当センターが行なった東西線調査区の西延長上にあたる。今回の調査成果と合わせ、竜華地区南端、東西約500mの全容が明らかになった。

今回、古墳時代初頭の面を検出途中、調査区の北端で、東西方向の自然河川を検出した。河川からは布留式甕が出土した。古墳時代初頭から前期にかけて流れていたものと考えられる。河川岸には木材が多数見つかった。しかし、木材を組んだようすが認められないため、護岸施設ではないようである。

河川の南側には、流れに沿うように堤防状の高まりを検出した。高さ約0.4m、幅約1.5mを測る。

調査区全体の地形は、北側の河川に向かってなだらかに低くなる。堤防のすぐ南側が、全体より部分的に窪んでいるため、その部分の土を利用して、護岸機能を高めるため砂礫を混ぜて改良し、堤防の盛土にしていると考えられる。

堤防の盛土を削除すると、庄内式期から布留式期にかけての土器が一部に集中して出土した。庄内式甕、布留式甕、小形丸底土器、大形鉢、高杯、直口壺などの器種が見られ、完形のものが約90%を占める。同器種の土器が数個体、重なって出土しているものがあることから、意図的にこの部分に廃棄され、その直後に盛土をしたと考えられる。

堤防の盛土は、断面観察により、数回に分けて作りなおされているようである。

堤防の高まりは、後の土地利用にも影響している。同位置において、古代の面では大畦畔を、中世から近世の面では島畠を検出している。

今回の土器集積は一括性が高く、中河内地域における古式土器編年に一資料を加えることとなった。

（南條直子）



堤防断面と土器出土状況を東より撮影

久宝寺遺跡で体験学習

久宝寺遺跡水処理施設の発掘現場では、5月14日・15日の2日間、東大阪市立新喜田中学校が取り組む「職業体験学習」に協力し、2年生の男子生徒6名を受け入れた。

生徒達は、最初、暑さと多くの人々が働く現場の光景を目にして少し戸惑っていた。初日は土層の観察や断面図の作成、2日目は遺物の洗浄・接合などの作業を体験してもらった。説明を聞き、作業を進めていくうちに、直接土や土器に触れその感触を確かめ、お互いに意見を交わすなど積極的な姿が見えてきた。彼らが、いつの機会にか文化財の話題に接した時、今回の体験で感じた何かを思いだしてもらえればと思う。

(金光正裕)



接合した土器をもって記念撮影

池島小学校で出前授業

6月13日、池島分室の職員が池島小学校に出向き、総合的学習の一環として考古学の体験学習を行った。この出前授業は社会科で歴史の学習を始めた6年生を対象としたもので今年に入って3校目。当日は弥生時代人や古墳時代人に扮した職員や先生が登場し、縄文時代から古墳時代にかけての様子を具体的に解説した。また、これ以外に実物の土器や石器に触れる機会や土器パズルや火起こしなどを体験するなどの学習を行った。

地域に貢献し、社会に役立つことも当センターの存在意義の一つである。

(江浦 洋)



火起こしを体験する

トピックス

<<< 瓜生堂遺跡で弥生時代前期水田検出 >>>

平成11年度より近鉄奈良線立体交差化に伴って調査を行っている大阪府東大阪市の瓜生堂遺跡で、弥生時代前期中葉から後半の水田跡が検出された。調査地は瓜生堂遺跡の北東端に位置する。これまでの調査では、今回調査区の西隣で弥生時代前期中葉の堅穴住居が検出されていたが、生産遺構は未確認だった。

今回検出した水田はこの堅穴住居検出面と同一面であるが、この住居が立地する微高地が若干低くなったところに形成されていた。調査区全域にかけて、南北の幹線畦畔4条と支線の東西畦畔7条からなる、4枚以上の水田区画を確認した。1枚の規模は長辺5m、短辺2～3mである。畦畔は幅50cm、高さ10cm程度であり、水口も観察できる。

この調査区のさらに東で同時期の南北溝が検出されており、水田に関連する施設と考えられる。従って、この調査区以東に水田域が広がっていた可能性は高い。

畦畔内及び覆土から弥生時代前期中葉から後半の遺物が出土した。

弥生時代前期中葉に遡る水田の検出例は、近畿地方ではわずかで、最古に属する水田として注目に値する。

(川瀬貴子)



弥生前期の畦畔検出状況

弥生文化博物館 夏・秋の展示のご案内

平成14年夏季企画展

稲と森の神

東アジア世界のまつりから見た弥生文化

7月20日(土)～9月8日(日)

◇東南アジアの稲作、東北アジアの狩猟、民族資料などから弥生文化を考える。

セミナー：7/27・8/4・8/31



電面

(国立民族学博物館蔵)

平成14年秋季特別展

王の居館を探る

10月5日(土)～12月1日(日)

◇卑弥呼の時代とその前後の王の居館より弥生時代から古墳時代への大変革を追う。

考古学セミナー：10/13・10/27・11/3・11/24

大阪府立弥生文化博物館

〒594-0083 和泉市池上町443 T.0725-46-2162 F.0725-46-2165

月曜休館 [ただし祝休日のときは翌日]

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

常設展「目で見る弥生文化」(第一展示室)

「池上曾根ワールド」(第二展示室)

近つ飛鳥博物館 夏休み企画のご案内

「ちかつの夏はびっくり箱 《なにつくろう?》

どこにかざろう?」 7/30(火)～9/8(日) 月曜休館

近つ飛鳥博物館では、夏休み企画として、南河内の小中学校の先生方と協力して取り組んできたCDアートの作品を中心に、これまで博物館が学校と協力しておこなってきた活動の成果を発表します。

CDアートとは、不要になったCDを素材にしておこなう自由な造形活動です。今回の企画では、学校の美術・図工の時間に制作した作品や、展示品などから受けた印象をもとに博物館のワークショップで制作した作品を展示するとともに、遠足や校外学習の際にワークショップでつくられた作品とその様子などを写真やビデオなどもまじえて展

☆関連企画

・ファミリーワークショップ「CDをアートする
—こぶん時代と今をつなぐ?—」

開催日時 8/4(日)・8/18(日)13時～16時

示します。

期間中のワークショップや、来館者による巨大オブジェの制作も含めて、夏休みに家族連れで楽しんでいただける企画です。



なにつくろうかな?

詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

TEL. 0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>

日本民家集落博物館 夏から秋の催しご案内

竹細工・絵画教室<8/23(金)、24(土) 10:00～12:00>
ジュニア(小中学生向け)民家解説見学会

<8/25(日) 10:00～12:00>

ボランティアによる民家解説

<9～11月の各日曜 13:00～16:00>

民家模型展 <9/27(金)～10/3(木)>

秋の企画展「白川郷の暮らし」<10/1(火)～12/23(月)>

なるせ女剣劇団民家集落公演

<10/14(月) 13:30～15:30 雨天時20(日)>

はたおり体験教室 <10/18(金)～27(日)>

昔話と紙芝居に親しむ会

<10/26(土)、11/16(土) 10:30～, 13:30～>

学芸員による民家解説見学会

<11月の日・祝日 14:00～15:00>

民家の囲炉裏で暖まろう

—囲炉裏ばたでのお茶のサービスとわら草履体験—

<11月～来春3月の土・日・祝日>

落語で笑うて民家—「笑・会」民家集落秋の公演—

<11/10(日) 12:00～15:00>

押し花教室(年賀状作り) <11/23(土)、24(日)>

他に秋のお茶会、秋の撮影会も予定しています。上記の催しについて詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。(TEL06-6862-3137)



なるせ女剣劇団民家集落公演

平成13年10月、小豆島農村歌舞伎舞台において